

保険診療となった陽子線・重粒子線～先進医療給付金の対象外に

2022年は2年ごとに行われる診療報酬改定の年にあたり、あわせて公的医療保険への収載を検討する医療技術の評価も行われています。先進医療にも動きがありました。

●一部のがんに健康保険が使える

4月から5つの先進医療技術が、新たに保険診療に加わっています。なかでも注目されるのが、「陽子線治療」と「重粒子線治療」の一部が健康保険の対象となったことです。これらについては、すでに以下のがん治療が保険収載されています。

【2016年4月～】

- ・ 小児がん…陽子線治療
- ・ 切除困難な限局性の骨軟部腫瘍…重粒子線治療

【2018年4月～】

- ・ 切除困難な限局性の骨軟部腫瘍…陽子線治療
- ・ 頭頸部悪性腫瘍(口腔・咽喉頭扁平上皮がんを除く)…陽子線・重粒子線治療
- ・ 限局性及び局所進行性前立腺がん(転移を有するものを除く)…陽子線・重粒子線治療

さらにこの4月から保険収載されたがん治療は、以下のとおりです。いずれも切除困難ながんに限ります。

肝細胞がん(長径4cm以上のものに限る)／肝内胆管がん／局所進行性膵がん／局所大腸がん(手術後に再発したものに限る)…陽子線・重粒子線治療
局所進行性子宮頸部線がん…重粒子線治療

これら以外については、引き続き安全性・有効性の評価を行う先進医療扱いとなります。

●年間件数は多くない先進医療

先進医療の代名詞ともいえる陽子線・重粒子線治療ですが、保険収載されたものについては当然ながら先進医療ではなくなるわけです。4月以降、先進医療特約の給付金支払い対象からは外されています。

5月1日現在で先進医療の技術数は86種類あるのですが、【表1】を見てもわかるように、過去5年間でも数が変動しています。新たに申請されるものもあれば、先進医療でなくなるものもあるからです。そのた

め、保険会社各社は約款で、治療を受けた時点において先進医療であるものを給付対象と定めています。300万円前後かかる陽子線・重粒子線治療も、保険診療になれば自己負担はかなり減るので当然です。

高額というイメージの先進医療ですが、実施件数の多い治療をピックアップしたところ、安い治療もあります【表2】。ちなみに上から3番目の「前立腺針生検法」も、今回の診療報酬改定で保険収載されています。

また、年間の患者数も2020年からは5,000人台ですから【表1】、先進医療を受けるリスクを、あまり過大評価しないほうがいいでしょう。なお、2020年に患者数が激減したのは、同年4月に「多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術」が先進医療から外れた影響です。こちらは現在、歯科の金合金等と同様の「選定療養」となっています。

現状、先進医療による経済的リスクを大きく考える必要はなさそうですが、将来的には様々な可能性が考えられます。先進医療特約の保険料は一般的に月額百数十円程度。まさに「保険」として付けるというスタンスでいいでしょう。

(クルー 浅田里花)

【表1 6月30日時点で実施されていた先進医療の実績(前年7月1日～当年6月30日の12か月)】

	技術数	実施医療機関数	全患者数	先進医療費用の総額
2017年	102種類	885施設	3万2984人	約207億円
2018年	92種類	936施設	2万8539人	約240億円
2019年	88種類	1,184施設	3万9178人	約298億円
2020年	83種類	252施設	5,459人	約62億円
2021年	83種類	267施設	5,843人	約62億円

【表2 2021年6月30日時点で実施されていた先進医療の例】

技術名	平均入院期間	年間実施件数	1件当たりの先進医療費用	実施医療機関数
陽子線治療	15.7日	1,285件	264万9978円	18施設
重粒子線治療	5.2日	683件	318万6609円	6施設
MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法	2.6日	1,338件	10万8182円	26施設
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	4日	614件	2万7863円	25施設
術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージⅢ)	1.5日	488件	1,462円	30施設